

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	＊	＊	＊
	○	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・中東情勢や自然災害などの影響で、先行きの社会情勢や物価動向がどのように推移するのか、不安は深まるばかりであるものの、客の購買動向は、これまでと比べて、やや落ち着いている状況にある。
	○	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・新しい店舗が開店した効果もあって、新規客が増えている。既存客も一定数の来店がみられる。新規客と既存客の相乗効果で、売上も販売台数も伸びており、2か月連続で前年を上回っている。
	○	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・桜の開花が例年よりも早かったことから、ゴールデンウィークを前にして、週末の来客数が増加している。また、4月末から、地域一体となった人気アニメのイベントが始まることで、大きな集客につながることを期待できる。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・販売量に大きな増減はみられず、おおむね横ばいで推移している。急速な回復に向けた兆しはみられないものの、大幅な落ち込みもないことから、消費者の購買意欲は一定水準を維持している。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・4月13日に運賃の値上げをしたところ、懸念していたような乗り控えが余りみられなかったことから、売上は増加傾向で推移している。ただし、中東情勢の影響で、燃料費の負担が増していることから、経営的には厳しい状況となっている。
	○	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・春を迎えて、人流が回復していることで、客の来店や相談の動きは一定水準を維持している。特に、都市部の店舗を中心に、料金プランや通信環境の見直し、固定通信に関する問合せが多くみられる。また、物価上昇に伴う家計の負担増を意識して、契約内容や費用対効果を慎重に確認する客が増えている。全体として需要は底堅いものの、比較検討を行った上で契約する傾向が強まっている。
	○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・例年と比べて、雪解けも桜の開花も早かったことから、4月に入ってから、多くの観光客でにぎわっている。ゴールデンウィーク前に桜のシーズンを迎えたことで、当地の行楽期間が長期化していることもプラスである。また、例年よりもクルーズ客船の寄港が多いことから、インバウンドの利用も増加している。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・例年と比較して、欠航が多かったものの、輸送量は増加している。特に、トラックなどの工事車両の輸送量が大幅に増加している。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・中心市街地を訪れる客がいまだに少ない。駐車場に止めている車も、他県ナンバーは少ないままである。一方、夜間については、週末を中心に、異動などに伴う歓送迎会が行われていることで、多少の人出がみられる。
□	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・日本人による購買は前年を下回っている。一方、外国人による購買は、中国以外のアジア各国の購買力が伸びていることから、前年を上回っている。これらのことから、全体的な売上は横ばいで推移している。	
□	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・店内イベントなどの効果により、各部門の売上は堅調に推移しているものの、全体的には前年並みの状況が続いている。物価の上昇が続いていることから、こうした傾向はしばらく続くとみられる。	
□	スーパー（店長）	お客様の様子	・中東情勢が長期化していることで、客から商品の入荷状況や価格動向などを質問されることが増えている。米の価格について聞かれることも増えている。	

□	スーパー（店長）	来客数の動き	・例年と比べて、雪解けが早かったこともあり、3月はサイクル用品や行楽用品の動きが活発だったものの、4月はその反動で低迷している。期間の累計で見ると、前年並みの販売量にとどまっている。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・3月は、周辺自治体によるプレミアム付商品券などの施策効果、加熱式たばこ値上げ前の駆け込み需要がみられたものの、4月に入り、中東情勢の不透明感が増していることから、客の来店動向が鈍化している。売上は、駆け込み需要の反動もあって、前年と同水準にとどまっている。
□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・物価高が続いていることから、客の節約志向は高いまま推移している。
□	衣料品専門店（エリア担当）	来客数の動き	・光熱費などの高騰は続いているものの、必要な商品を買いたいという客の買物行動は大きく変わっていない。
□	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車、中古車、サービス部門のいずれも前年の売上実績が悪かったことから、前年比では約1割の増加となった。ただし、3か月前と比べると、やや落ち込んでいる。
□	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・3か月前と比べると、前年比は上昇傾向にあるものの、中東情勢の影響で駆け込み需要が生じていることが要因となっている。これは特殊要因による影響であり、全体の景気が上向いているとは判断できない。
□	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	来客数の動き	・ようやく雪の影響がなくなったものの、来客数の減少が収まらない状況にある。ただし、客単価が上昇していることで、何とかしのぐことができている。
□	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・期待していたほどのインバウンド需要がみられない状況にある。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・4月に入り、ガソリンや灯油の価格が落ち着いてきたことで、客の安心感が高まっており、前月と比べて、客の来店状況が回復している。
□	美容室（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月、売上がほとんど変わらずに推移している。
□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・資材価格が高騰しているなか、ナフサ不足の影響や人件費の上昇により、建築単価が一段と高止まりしており、消費者の購入意欲を押し下げている。
▲	商店街（代表者）	販売量の動き	・販売量や客単価が上向き始めていたなかで、石油関連製品の価格が高騰し始めたことで、客の消費行動が慎重になっている。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・人の動きが、活発ではなくなっている様子が見えてくる。
▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・最近の物価高、特に石油関連製品の価格高騰により、当社の主力商品である酒類への支出が抑制され始めている。
▲	一般小売店（経営者）	来客数の動き	・中東情勢の影響を要因とした物価高により、マイナスの影響を受けている。
▲	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・中東情勢の影響で駆け込み需要が増えており、雑貨品の販売量が伸びている。特に、石油化学製品を原材料とするような商品で動きが顕著である。
▲	スーパー（役員）	単価の動き	・商品価格が上昇していることから、売上は前年比プラスとなっているものの、商品の値上げが続いていることで、客の節約志向は強まっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・これまでは、来客数こそ減っていたものの、商品の値上げに伴って、客単価が上昇していたことから、売上は前年を上回っていた。しかし、4月に入ってからは、客単価が前年並みで推移している。米や卵に加え、ガソリンなどの値上げが進んでいることで、客が食費を抑えざるを得ない状況となっている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・中東情勢の影響により、ガソリンなどの生活必需品の値上げが懸念されていることから、客が消費を抑えている。
▲	コンビニ（店長）	お客様の様子	・おにぎりやパンなどの値引き時間に合わせて、来店する客が増えている。

▲	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・中東情勢の影響やそれを要因とした物価上昇により、客の買い控えが生じている。金利が上昇傾向にあることもかなりのマイナス材料となっている。
▲	自動車備品販売店 (店長)	お客様の様子	・物価高が続くなか、中東情勢の影響により、自動車業界においても、ディーゼルオイルの入荷時期が未定になったり、尿素水やウォッシャー液の出荷制限が生じたりするなどの影響が生じている。ただし、タイヤやサービス部門の売上が好調なことから、店舗の売上は、予算を5%ほど上回っている。一方、電装品や車内用品などは、予算を5%ほど下回っており、苦戦している。客にとって必要な商材やメンテナンスが優先される傾向が強まっており、景気は余り良くない状況にある。
▲	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	単価の動き	・灯油価格の急騰により、販売量が低調に推移している。
▲	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・前年の売上を下回りそうなことから、景気はやや悪い。3月は新規客の利用が多く、にぎわったものの、4月は地元主婦層を中心に利用客が減少している。周りのレストランやホテルからは、主要客層がインバウンド、国内客にかかわらず、客の動きが落ち着いているとの声を聞く。全体的に売上も減少しており、食材納品業者にも影響が出ている。また、周りの小売店の食品売場では、安価な肉や魚介のパック販売が増えており、高単価商品を以前ほど見掛けなくなっている。
▲	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・3月は大型コンサートの影響もあって、国内線の利用者が増加し、国際線も観光客も中心に前年を上回る傾向で推移した。この結果、3月の空港利用者数は過去最高を記録した。しかし、4月に入り、中東情勢の影響により、石油関連製品を中心に、多くの商品で値上げの動きがみられるようになったことで、消費者の生活防衛意識が高まっている。このため、4月の景気はやや悪くなっている。
▲	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・中東情勢の影響とそれを要因とした原油価格の高騰により、旅行需要が冷え込んでいる。航空会社では予約数の伸び悩みが、旅行代理店では予約のキャンセルや問合せの減少といった影響がみられている。特に海外旅行は敬遠されがちで、国内旅行にシフトする動きも一部みられるものの、全体としては消費者の旅行意欲が減退している状況にある。こうした状況が続くことになれば、観光関連産業に大きな影響が生じることになる。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・雪解けに伴い、路面状況が良くなったことから、徒歩や自転車を利用する客が増えている。そのため、タクシーの利用客が減少している。
▲	美容室(経営者)	それ以外	・物価高が収まらないため、景気はやや悪くなっている。特に、原油価格の高騰は、光熱費などに直接響いてくることから、影響が大きい。
×	商店街(代表者)	来客数の動き	・今年の春は、雪解けが早いこともあって、来客数も多く、順調に推移していたものの、原油の供給不安の高まりにより、ガソリン価格が急騰したことをきっかけに、車で来店する客が急激に減少しており、月全体の来客数の減少につながった。駐車場の稼働率も落ちている。
×	スーパー(店長)	来客数の動き	・中東情勢の影響もあって、客の様子に落ち着きがみられなくなっている。
×	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・石油関連製品について、ガソリンはもちろん、それ以外の製品でも値上げの動きが進んでいるとの報道がみられ始めてから、客の来店動向が明らかに落ち込み始めている。年金の支給日や給料日には、客の動きがみられるものの、それ以外の日は、客の動きが非常に鈍くなっている。

	×	衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・例年と比べて、早めに気温が上がり始めたことから、衣替えが進むと期待していたものの、価格にシビアな客層が増えている。まとめ買いの量も減っており、客の来店はあっても、売上につながらないことが多くなっている。
	×	その他専門店 [造花] (店長)	単価の動き	・中東情勢を要因としたナフサ不足の影響を大きく受けている。出荷制限により、まともに入荷されない商材が増えており、思うように商品を販売できない状態となっている。
	×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・中東情勢の影響により、客のマインドが明らかに低下しており、国内客、インバウンド、団体客、個人客のいずれも予約が鈍化している。特に、国内客については、物価高もあいまって、予約数が非常に伸び悩んでいる。また、原油の供給体制に不安定さが増していることを要因に、仕入単価が大幅に上昇しており、希望数量の確保に苦慮している。
	×	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・燃料価格の高騰により、国際線の需要が落ち込んでいる。また、国際線の燃油サーチャージ上げが、国内線の需要にも影響している。北海道・三陸沖後発地震注意情報の影響もみられ、景気は悪くなっている。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・3月末から雪解けが一気に進み、暖くなるのも早かったことから、タクシーの利用は冬期間と比べて激減している。タクシー1台当たりの売上は、前年比マイナス5%となった。3月までは、前年12月の運賃値上げと冬期間の運賃割増しの効果で順調に売上が伸びていたものの、4月に入ってから、夜間の人出も少なくなっている。週末の繁華街の人通りも少なく、3月までのにぎわいが感じられない状況にある。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・石油関連製品の価格が上昇すると懸念から、消費者の生活防衛意識が強まっている。不要不急の外出を控える傾向がみられるようになっており、それに伴ってタクシー利用も減少している。
	×	住宅販売会社 (経営者)	単価の動き	・中東情勢の影響により、原油価格が上昇しており、それに伴って、原材料価格の高騰、物資の供給不足といった影響も出ている。ただでさえ住宅着工が少ないなか、コストが上昇する一方であることから、景気は悪くなっている。
	×	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームを訪れる客の購買意欲がかなり落ち込んでいる。その理由として、エネルギーや食料品などの値上げが一段と進んだことで、客の住宅購入に充てる予算が大きく減少していることが挙げられる。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	建設業 (役員)	受注量や販売量の動き	・新年度に入ってから工事の受注状況は、官民共に好調であり、既に計画を上回る工事量を確保できている。雪解けが急速に進んだことも追い風となっており、例年よりも早い段階で、本格的な工事が始まっている。
	○	輸送業 (支店長)	受注量や販売量の動き	・石油関連製品の不足により、物流への問合せが増加している。また、早めの商材調達などにより、輸入量や国内輸送量が増加している。
	○	通信業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・商談の引き合いが以前よりも増えている。
	○	広告代理店 (従業員)	受注量や販売量の動き	・売上が順調に推移している。
	○	その他サービス業 [建設機械リース] (営業担当)	受注量や販売量の動き	・引き続き国内建設投資は堅調に推移している。ただし、中東情勢の長期化については、留意を要する。
	□	農林水産業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・青果物については、収穫期前であることから、動きがみられない。ここ数年、りんごの収穫量が減っていることもマイナスである。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量が前年を下回っている状況は変わらない。

	□	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・景気が上向いていると思うほどの案件の相談があるものの、担当できる人材が不足していることから、契約まで至らないことが多い。心情的には、好景気と考えたいものの、実際の景気はこれまでと変わっていない。
	□	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・強風などの悪天候の影響により、作業が停滞する日が多く、取扱量は減少している。一方、バター、粉乳の在庫が堅調に推移していることから、保管量は増加している。また、ゴールデンウィークを前にして、飲料容器関連、農産品、雑貨などのトレーラー貨物が大きく動いている。
	□	その他非製造業 〔鋼材卸売〕 （従業員）	受注量や販売量の動き	・前年と比較すると、販売実績は大幅に増えている。ただし、前年からの大型案件の納入に伴うものであり、ベース商材の販売量は前年から25%ほど減少している。
	▲	食料品製造業 （従業員）	受注量や販売量の動き	・中国からのインバウンドの減少幅がやや縮小し始めているものの、中東情勢の影響を受けて、インバウンドの動きが全体的に落ち込み始めている。
	▲	家具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・中東情勢の影響により、景気はやや悪くなっている。
	▲	金属製品製造業 （従業員）	受注量や販売量の動き	・人口減少の影響と新築住宅の価格高騰により、着工棟数の減少が続いている。さらに、中東情勢の影響により、先行き不透明な状況となっている。
	▲	建設業（経営者）	取引先の様子	・毎月のように、資材価格の再見積りが生じている。見積金額は、以前と比べて2～3割上昇しているため、利益が縮小している。
	▲	金融業（従業員）	取引先の様子	・大幅な賃上げが続いたことで、企業の人件費負担が増加している。また、物価高騰に伴う価格転嫁も十分に進んでいないことから、企業収益を圧迫しており、景況感はやや悪くなっている。中小企業の賃上げ幅は、前年と比べて縮小する見通しとなっている。
	▲	司法書士	取引先の様子	・不動産業や建築業において、中東情勢の影響で、塗料などの資材の不足や価格高騰が生じていることで、案件の遅延や中止などがみられるようになっている。円安を背景とした輸入品の価格高騰もあいまって、景気の悪化が進んでいる。
	▲	司法書士	受注量や販売量の動き	・仕事の引き合いは多かったものの、月内に報酬を受領できた案件が少なかった。
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規受注の確保に苦戦している。
	×	—	—	—
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—
(北海道)	□	人材派遣会社 （社員）	採用者数の動き	・求人数の引き合いは、3か月前と比べて、10%ほど減少している。ただし、企業と求職者の面接件数は20%ほど増えており、企業の採用意欲は強まっている。内定数も3か月前よりも増えている。一方、採用に当たって、企業はスキルよりも人柄を重視しており、教育次第で伸びる人材、短期で退職しない人材を求めようになっている。売手市場ではあるものの、企業の採用基準は厳しさを増している。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	雇用形態の様子	・業界を問わず、中途の正社員雇用が減少している。一方、新卒採用は増加傾向にあり、採用者数は前年を上回っている。IT企業では、AIの台頭により、募集する職種に変化が生じているほか、採用人数よりも質の高さを求める企業が増えている。
	□	求人情報誌製作 会社（編集者）	雇用形態の様子	・求人広告に対する反応が、ここに来て高まりつつあり、20代の若年層の採用につながった事例もみられる。就職活動の早期化も進んでおり、大学1年生のうちに内定が出る事例もみられる。ただし、スポットワークの増加により、雇用の不安定化が進んでおり、先行きに対する不透明感は強まっている。

□	学校 [大学] (就職担当)	求人数の動き	・求人数の伸び悩みを背景に、景気は横ばいで推移しており、3か月前と比べて、大きな変化はみられない。雇用面に関しては、人手不足と採用抑制の動きが併存している状況にある。
▲	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・前年と比べて、求職者の動きが鈍く、応募者数は前年の9割程度となっている。
▲	求人情報誌製作 会社 (編集者)	それ以外	・物価高が顕著であることに加え、今後に向けて、物資不足などの不安な報道があふれていることから、景気はやや悪くなっている。
▲	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・物価高が続くなか、中東情勢を要因とした原油価格の高騰により、物価高が一段と進んでおり、全ての経済活動に影響が出始めている。また、価格転嫁が進んでいない中小零細企業が多く、体力のない企業が倒産する事例も生じている。こうした事例は、氷山の一角であり、注視が必要な状況にある。
▲	職業安定所 (職員)	周辺企業の様子	・求人動向に大きな変化はみられないものの、企業経営に、中東情勢の影響が出始めている。特に、食品小売では、トレーや包装資材などの調達に支障が生じており、今後、価格転嫁に向けた動きが強まることが懸念される。
×	*	*	*